

基本情報 (法学部)

時間割コード／Course Code

開講区分(開講学期)／Semester 2 学期

曜日・時間／Day and Period 水 6

開講科目名／Course Name (Japanese) リーダーシップを考える

開講科目名(英)／Course Name Taking Leadership Seriously: Learning from Doing

単位数／Credits 2 対象所属／Eligibility 年次／Student Year

担当教員／Instructor

開講言語／Language of the Course 日本語

基本項目

サブタイトル／Subtitle

セミナー番号／Seminar Number 401

履修対象／Eligibility 全学部

開講時期／Schedule

セメスター／Semester II

講義室／Room ステューデント・commons セミナー室 D

授業の目的と概要／Course Objective

この授業では、学生と教員が社会と協働して授業を創造し運営する活動の中で、リーダーシップを具体的に学びます。

リーダーシップは、首相や社長などの地位から生じるものではありません。リーダーシップの基本は、市民の1人1人が社会的問題を、責任を持って解決しようとする行動にあります。リーダーシップの目的は、困難な問題を解決するために人びとに価値観や行動の変化(学習)を促すことです。

この授業では、通常は教員が独占している“教育”を、学生がより良くする(困難な問題を解決する)という活動を通じてリーダーシップを実践します。ディスカッションや振り返りや企画立案を通じて、リーダーシップの重要要素である話し方やコミュニケーション力、プレゼンテーションスキル等を養成することができます。

さらに、リーダーシップを実践しているゲスト講師から学ぶ機会も設けています。2016年度は、杉原佳堯様(Google 執行役員)、中村俊裕様(コペルニク共同創設者兼 CEO)、福井佑実子様(株式会社プラスリジョン代表取締役)をゲストにお迎えしました。

なお、受講者間の相互理解と集中的な練習のために、集中講義として合宿を行います。(受講生は原則として参加してください。)

昨年度の講義日程表は以下の URL より閲覧できます。

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/kougi.html>

学習目標／Learning Goals

- ・ 自分が主体的に意思を持って動けるようになる。
- ・ 人に動いてもらえるような伝え方や動き方ができるようになる。
- ・ チームや会議の中で話し合い、相手の意見を引き出して自分の意見をよりよく変えていくことによって、合

意形成ができるようになる。

特記事項／Special Note

授業を創るのは簡単ではありません。シラバスをよく読み、授業の目的を理解して、一回きりのイベントではなく 12 回分の連続性と相互関係を考えながら、準備のための十分な時間的余裕をみて内容を決定してください。

- ・ 講義時間は原則として水曜の 18:00～20:00 とし、練習、実践、集中講義（合宿）の回数を含めて、全 90 分 ×15 コマ分（1,350 分）以上の講義を行います。
- ・ 下記授業計画に基づく詳細な講義日程を、KOAN 等に掲示します。
- ・ 第 1 回授業で、「GLP（Global Leadership Program）共通テキスト」を配布します。
- ・ 対話型、実践型授業のため、受講者数を 15 人程度とします。
- ・ 毎回の授業の最後に、振り返りシートを記載します。

（受講理由書）

シラバスを熟読してから授業に臨むとともに、10 月末日までに、なぜこの授業を受講したいかを記載した「受講理由書」をメールで提出すること。提出内容は A4 用紙一枚以内(Word ポイント 11)とし、ファイルのヘッダーに提出日・氏名・学番・メールアドレスを表記すること。

メールは<glp@osipp.osaka-u.ac.jp>宛、必ず表題に「2017 リーダーシップを考える(受講者名)」を表記すること。

（集中講義について）

受講者間の相互理解と集中的な練習のために、集中講義として合宿を行います。

日時： 未定（昨年度は 2016 年 11 月 12 日（土）～13 日（日）吹田市自然体験交流センターにて実施）

参加費・交通費： 無料

授業計画／Class Plan

第 1 回 オリエンテーション

【内容】シラバスを読んで授業の目的を理解する。リーダーシップとはアクションの集合であることとアクションは練習で身につくことを学ぶ。第 2 回、3 回、4 回の運営方法を決定する。

第 2 回 授業創造のためのスキル練習 1

【内容】集中講義（合宿）の計画を立てることを通じて、ブレインストーミングと意見集約の練習を行う。第 4 回の運営方法を決定する。第 1 回自己評価シートの作成。

第 3 回 授業創造のためのスキル練習 2

【内容】集中講義（合宿）の計画を立てることを通じて、ファシリテーションと合意形成の練習を行う。第 5 回の運営方法を決定する。第 1 回相互評価シートの作成。

第 4 回 講師 1 による授業

【内容】講師 1 のプレゼンに基づく質疑応答とディスカッションを行う。合宿の内容を決定する。

第 5 回 授業運営スキル研修

【内容】第 1 回～4 回で学んだことを復習し、自己評価を行う。改善点を洗い出し、今後の進め方を再確認する。合宿の最終打ち合わせをする。第 8 回の運営方法を決定する。第 2 回自己評価シートの作成。

第 6 回 振り返りと実践 1（集中講義：合宿）

【内容】前回までの授業で学んだことを振り返り、再度実践し、相互評価を行う。第 9 回、第 10 回の運営方法を決定する。

第7回 振り返りと実践2（集中講義：合宿）

【内容】 前回までの授業で学んだことを振り返り、再度実践し、相互評価を行う。第9回、第10回の運営方法を決定する。 第2回相互評価シートの作成。

第8回 講師2による授業

【内容】 講師2のプレゼンに基づく質疑応答とディスカッションを行う。第11回の内容を決定する。

第9回 二者択一の意味決定

【内容】 今までの授業とは異なる対立的な議論をディベートによって体験する。第11回授業の運営方法を決定する。

第10回 講師3による授業

【内容】 講師3のプレゼンに基づく質疑応答とディスカッションを行う。第12回授業の内容を決定する。

第11回 受講者による授業

【内容】 受講者が創った授業を実施する。

第12回 受講者による授業と振り返り

【内容】 受講者が創った授業を実施する。全授業を振り返り、評価をする。
第3回相互評価シート、第3回自己評価シートの作成。

授業形態／Type of Class 講義科目

授業外における学習／Independent Study Outside of Class

この授業はグローバルリーダーシップ・プログラムの一部です。リーダーシップを総合的かつ実践的に身につけるためには2学期木曜4限の「経営者と語るリーダーシップ」も受講すると効果的です。「経営者と語るリーダーシップ」は学部向けに開講されており、内容はゲストによるプレゼンテーションと質疑応答（聴くことと訊くこと）が中心です。グローバルリーダーシップ・プログラム事務局 glp@osipp.osaka-u.ac.jp に申し込めば、聴講を許可します。

さらに、授業中のディスカッションや合意形成のスキルを磨くため、他の授業や学内外で催される交渉、ディベートやリーダーシップのセミナーに参加することを勧めます。受講者による自主的な企画や提案も歓迎します。

教科書・教材／Textbooks

第1回授業で、「GLP（Global Leadership Program）共通テキスト」を配布します。

参考文献／Reference

実践だけではよいリーダーシップは身に付きません。次の参考文献を自分の実践と照らし合わせて反省しながら授業に取り組んでください。

- (1) 平田オリザ・蓮行（著）、『コミュニケーション力を引き出す』、PHP 研究所、2009.
- (2) ビル・ジョージ、ピーター・シムズ（著）、『リーダーへの旅路—本当の自分、キャリア、価値観の探求』、生産性出版、2007.
<原著：“True North”, Bill George with Peter Sims の読書を推薦>
- (3) トム・ケリー（著）、『発想する会社！— 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』、早川書房、2002.
<原著：Tom Kelley, “The Art of Innovation: Lessons in Creativity from IDEO, America's Leading Design Firm”, Crown Business, 2001.>
- (4) マーティ・リンスキー、ロナルド・A・ハイフェッツ（著）／竹中平蔵（訳）『最前線のリーダーシップ』

ファーストプレス、2007.

<原著: Ronald A. Heifetz, Marty Linsky, “*Leadership on the Line*”, Harvard Business Review Press, 2002.>

(5) シャロン・ダロツ・パークス (著) / 中瀬英樹 (訳)、『リーダーシップは教えられる』、武田ランダムハウスジャパン、2007.

<原著: Sharon Daloz Parks, “*Leadership Can Be Taught*”, Harvard Business Review Press, 2005.>

以下は、講義中に指示します。

- (1) 野村美明ブログ <http://nomurakn.blogspot.jp/>
- (2) 大学対抗交渉コンペティション <http://www.negocom.jp/>

成績評価／Grading Policy

- ・受講理由書 (5%)、平常点 (行動の適切さ+発言内容+相互評価) (75%)、学期末レポート (20%) などにより総合的に評価します。
- ・受講理由書を第1回授業までに提出してください。
- ・受講理由書と学期末の授業の振り返りのレポートの2つを提出することによって、受講前後で自分自身にどのような変化が生じたのかを実感できます。
- ・無断欠席した者は評価の対象としません。無断で遅刻・早退した場合も同様とします。

受講生へのメッセージ／Messages to Prospective Students

授業目的に共感し、合意形成とチームでの協働作業に積極的に参加する学生を望みます。